県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの　２月号
農業普及現場

NEWS LETTER No.192　2023.1

紹介内容（1/1～1/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
○　気仙沼農改：農業法人経営に関する研修会を開催しました
○　石　巻農改：石巻農業士会が研修会を開催し、オランダ型次世代施設園芸を学ぶ

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
○　大河原農改：　みやぎ農業未来塾　果樹農業後継者育成講座を開催

③　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○　栗　原農改：　栗っこズッキーニ実績検討会が開催されました
○　大河原農改：　とうもろこしの栽培講習会が開催されました
○　美　里農改：　加工業務用ばれいしょの産地化を目指して～排水性改善の実証に向けた事前調査の実施
○　大　崎農改：　ぶどうのせん定状況確認巡回を行いました
○　亘　理農改：　若手りんご生産者を対象としたりんごせん定講習会が開催されました
○　石　巻農改：　河北ミニトマト部会栽培講習会が開催されました
○　栗　原農改：　春まきそらまめの栽培講習会が開催されました
○　栗　原農改：　栗原地域園芸振興セミナーを開催しました
○　仙　台農改：　ＪＡみやぎあさひなりんご部会の研修会が開催されました
○　登　米農改：　ＪＡみやぎ登米加工用ばれいしょ説明会が開催されました

④　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
○　大河原農改：　三住地区簿記記帳会が開催されました
○　美　里農改：　「吟のいろは」作柄検討会を開催しました
○　登　米農改：　令和４年度東和町稲作部会総合検討会が開催されました

⑤　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
○　気仙沼農改：　「蔵の華」栽培反省会を開催しました

⑥　要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
○　仙　台農改：　宮城教育大学附属小学校の体験学習会が開催されました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○農業法人経営に関する研修会を開催しました
令和５年１月 27 日
気仙沼農業改良普及センター

国際情勢の不安定化に伴う資材高騰，新型コロナウイルス感染症拡大に伴う農産物需要の減少など，厳しい情勢が続く中，農家経営の安定化には，技術的な対策だけでなく，需要に応じた農産物の生産や販路の開拓，効率的な作業体系の確立，人財育成など，費用対効果を考慮した総合的な経営戦略が必要となっています。

１２月１４日に開催した研修会では，「株式会社舞台ファーム」伊藤専務取締役を講師にお招きし，「農業法人経営の戦略」と題して御講演いただきました。舞台ファームは，水稲，野菜の複合経営に加え，運送やコンサルティングなど多角的な経営を行うとともに，ニーズを先取りした独創的な販売戦略を展開している県内の先進的農業法人です。
講演では，「新しい価値を作り出す」ための，マーケティングの考え方や「イノベーション」など，具体例を基にした経営戦略の思想を語っていただきました。

参加した管内農業法人経営者からは，積極的な質問が寄せられ，経営の高度化に向けた議論が盛り上がるとともに，講演内容や他経営体との交流をとおして「刺激になった」との感想をいただきました。

また，令和５年の 10 月から開始される消費税インボイス制度について，気仙沼税務署を講師にお招きし，事前に経営者から聞き取った疑問点を中心に説明いただきました。参加した各法人は，制度のわかりづらさから準備が遅れていたり，準備は進めているものの，疑問を抱えていたりする中，円滑な対応に向け疑問点が解消出来ました。

○石巻農業士会が研修会を開催し、オランダ型次世代施設園芸を学ぶ
令和５年１月 30 日
石巻農業改良普及センター

令和５年１月 20 日に石巻農業士会は農業経営と地域農業振興の一助とするため，石巻市北上町でパプリカとトマトを大規模生産販売する株式会社デ・リーフデ北上を視察しました。

株式会社デ・リーフデ北上は，平成 26 年に「愛ある強い農業を通じて，人々の心を豊かにし，健康で笑顔あふれる社会を築こう」を経営理念に掲げ，東日本大震災からの復興，雇用の創出，地域活性化の願いを込め，オランダ型の次世代施設園芸への挑戦を決意し，平成 28 年からパプリカ 1.3ha とトマト 1.1ha の栽培を開始しました。

オランダ型の園芸施設は，透光性の高いフェンロー型ガラス温室，雨水と排液リサイクルの養液栽培システム，木質ボイラーのハイブリッド暖房システム，作物の生育に最適な環境を整える高度環境制御システム，人工光型の育苗施設，労働生産性を上げる労務管理システム，多様な出荷形態に対応した集出荷施設を備え，パプリカは年間約 260ｔ，トマトは約 500ｔを契約販売等で全国へ出荷しているとのことでした。

鈴木社長は「コロナ禍，円安，物価高で経営環境は厳しいが，自社販売で価格決定権を持ち，人材育成を図って，農場拡大や食料自給率向上に貢献したい」と将来の展望を話されました。

オランダ型施設園芸への挑戦，会社創立の苦労，関係者の協力，販路の拡大，若手社員の人材育成など貴重な体験やお話を聞くことができ，大変有意義な研修となりました。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾　果樹農業後継者育成講座を開催！
令和５年１月 31 日
大河原農業改良普及センター

令和５年１月２０日に「果樹農業後継者育成講座～りんごせん定実技研修会～」を開催しました。

本研修会では，大河原農業改良普及センター管内における若手果樹農業者を対象に，亘理名取果樹振興協議会の若手メンバーと共に栽培技術の向上や交

流を図りました。当日は指導農業士である結城喜和氏（亘理町）から，矮性台とマルバ台のりんごせん定技術について，３時間に渡り，理論的かつ丁寧にご説明いただきました。

参加者からは「せん定を丁寧に教わる機会が無かったので大変勉強になった」「りんご以外の品目でも勉強会を開催してほしい」など前向きな意見が聞かれました。

普及センターでは，今後も技術研鑽や交流等を通じて，若手農業者の育成に努めてまいります。

③園芸産地の育成・強化支援

○栗っこズッキーニ実績検討会が開催されました
令和５年１月４日
栗原農業改良普及センター

令和４年１２月２３日，JA 新みやぎ若柳支店で，JA 新みやぎ栗っこズッキーニ部会の実績検討会が開催され，部会員１４名が出席しました。

はじめに，全農みやぎより，ズッキーニの市場情勢や他県産の動向について説明がありました。つぎに，JA 新みやぎより，月毎の出荷量と販売単価の推移についての説明と，令和４年産の気象や生産状況の振り返りがありました。

普及センターからは，今年行ったズッキーニの PR 活動の内容について報告しました。また，本年度は，人と環境にやさしい栽培技術の導入に向けて，生分解性マルチを使った省力化や立体栽培による軽労化，暑熱対策についての実証ほを設置しており，その調査結果を報告しました。立体栽培や生分解性マルチについて活発な意見交換が行われ，有意義な検討会となりました。

○とうもろこしの栽培講習会が開催されました
令和５年１月４日
大河原農業改良普及センター

令和 4 年 12 月 9 日金曜日に，道の駅村田でとうもろこし「味来」の栽培講習会が開催されました。本栽培講習会には道の駅村田の生産者団体「村田ファーミーズ」の会員から 23 名が出席しました。

講習会では，朝日アグリア株式会社の方から推奨品種と栽培時の管理方法について，普及センターか

らはとうもろこしの主要病害虫と農薬使用時の注意点について説明を行いました。質疑応答では品種名やとうもろこしの生理障害等についての質問もあり，生産者の方々の関心の高さが伺えました。講習終了後には，生産者の方から「今回の講習で初めて知ったこともあり，とうもろこしの生産について基本の部分から改めて学ぶことができて良かった」との声も頂きました。

村田町の特産品であるとうもろこしの「味来」は直売所で早い時間に売り切れてしまうほどの人気商品であり，生産の拡大が求められています。普及センターでは，今後も生産向上に向けての支援を行っていきます。

○加工業務用ばれいしょの産地を目指して
排水性改善の実証に向けた事前調査の実施
令和5年１月 10 日
美里農業改良普及センター

美里町南郷地域では，水田転作としてポテトチップ原料の加工業務用ばれいしょの栽培に法人や個人が一体となって取り組んでいます。しかし，転作として取り組んでいるため，湿害の影響を受けやすく，今年 7 月の大雨の影響で収穫皆無となった畑が発生するなど，その対策は喫緊の課題となっています。

そこで，排水性の改善実証にも取り組むために，12 月初旬に，古川農業試験場を中心として，当普及センター，北部地方振興事務所農業振興部等が連携して，ほ場の現状を把握するための事前調査を行いました。

まず，ほ場の垂直方向の排水性及び各土層の状況を確認する試掘調査を行いました。地上から 80 ㎝ほど掘り下げた結果，作土層のすぐ下に硬い耕盤層が確認され，また，下層の粘土層が存在することや暗渠管の周囲に「もみ殻」がほとんど残っていないことから，排水性改善の必要性が高いと判断しました。

その他，土の深さごとの硬さの測定や，土壌水分の状況を電磁波を使った調査などを行いました。
今後は，生産者による排水対策の作業後の状況を調査し，有効な排水対策の方法を検討していく予定です。行いました。
今後は，生産者による排水対策の作業後の状況を調査し，有効な排水対策の方法を検討していく予定です。
普及センターでは，水田における高収益作物の生産振興を図るため，ばれいしょ等露地野菜の生産安定化に向けた取り組みを支援，展開していきます。

○ぶどうのせん定状況確認巡回を行いました
令和５年１月 23 日
大崎農業改良普及センター

普及センターでは，園芸振興や中山間地域の活性化，管内直売所の販売額向上などを目的に令和３年度からプロジェクト課題「直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売」を実施しています。商品価値の高いぶどうの果実を生産するためには，一年をとおして季節ごとに様々な作業が必要になりますが，冬季の最も重要な作業にせん定があります。昨年 12 月 21 日にせん定に関する講習会を開催しましたが，その後の作業状況を確認するため，令和５年１月 17 日に生産者の圃場を巡回し，修正点や今後の樹形形成方針などについてお話しました。管内では最近「シャインマスカット」などのぶどうの栽培面積が増加しているものの，植栽後間もない若木が多いため，今のところ店頭に並ぶ数も限られていますが，今後，樹の生長とともに収穫量も増加し，管内産「シャインマスカット」が「あ・ら・伊達な道の駅」や「やくらい土産センター」などの直売所でお求めいただけるようになりますので，是非お買い求めいただき，御賞味ください。

○若手りんご生産者を対象としたりんごせん定講習会が開催されました
令和５年１月 24 日
亘理農業改良普及センター

令和５年１月 20 日，亘理名取果樹振興協議会主催で，若手りんご生産者（就農して概ね 10 年程度の生産者）を対象としたりんごせん定講習会が開催されました。当日は，７名の若手生産者が参加しました。
管内のベテラン生産者が講師となり，わい性台「ふじ」とマルバカイドウ台「ふじ」を対象に，樹齢に応じた方法を解説しながら実技が行われました。
参加者から，隣接樹間伐の有無によるせん定方法の違いや更新枝の作り方のポイントなど多くの質問が出され，講師から丁寧な解説がありました。
当普及センターでは，今後も管内のりんご生産の支援を行っていきます。

○河北ミニトマト部会栽培講習会が開催されました
令和５年１月 24 日
石巻農業改良普及センター

令和５年１月 12 日に JA いしのまき主催のミニトマト部会河北北上支部の栽培講習会が開催されました。5 人の生産者が参加し，講習が行われました。前作の栽培管理と生育を振り返りながら，次作に向けたポイントを確認しました。
普及センターからは，前作目立った病害虫も見られなかったため，栽培の基本となる農薬の適正使用や農薬散布のタイミングなどを説明しました。
普及センターではこれからも巡回などを行いなが

ら，栽培管理の支援を行います。

○春まきそらまめの栽培講習会が開催されました
令和５年１月 26 日
栗原農業改良普及センター

令和５年１月１３日(金)，ＪＡ新みやぎ栗っこそらまめ部会「春まきそらまめ栽培講習会」がＪＡ新みやぎ志波姫支店で開催されました。ＪＡ新みやぎ栗っこの主な作型は秋まきの移植栽培ですが，収穫をずらして忙しい時期が集中しないよう，秋まきの直まき，春まきの移植栽培にも取り組まれています。

はじめに，種苗会社から生育の揃った苗を定植できるよう，播種や育苗時の温度管理などの栽培ポイントについて説明がありました。次に普及センターから，そらまめに発生する病害虫の特徴と対策，また，肥料価格の高騰による生産コスト増加が予測される中，過不足なく適切な施肥を行うため土壌分析に取り組むよう推奨しました。参加者は，低温期の栽培管理，適期防除の重要性について，知識を深めたようでした。

普及センターでは，同部会員のそらまめの栽培技術向上に向けて，今後も継続して支援していきます。

○栗原地域園芸振興セミナーを開催しました
令和５年１月 26 日
栗原農業改良普及センター

令和５年１月１８日（水)，昨今の肥料高騰を受け，園芸における施肥コスト低減に向けた技術の紹介と化学肥料の代替としての家畜由来堆肥の有効活用を目的に，県栗原合同庁舎を会場に「園芸振興セミナー」を開催しました。

はじめに，県農業・園芸総合研究所瀧上席主任研究員から土壌分析値の活用方法や堆肥の原料別肥料効果について具体的に解説いただき，続いて，情報提供として栗原市から栗原市有機センター堆肥について，普及センターから市内堆肥生産・販売業者，土壌分析について紹介しました。

セミナー当日は，農業者・関係者合わせて５０人の参加があり，熱心な質問も飛び交い関心の高さがうかがわれました。

○JA 新みやぎあさひなりんご部会の研修会が開催されました
令和５年１月 27 日
仙台農業改良普及センター

ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の研修会が令和５年１月 18 日に開催され，部会員８人が参加しました。

午前に大郷支店で実施した防除暦検討では，普及センター職員が講師となり，今年度の生育概況や病害虫の発生状況の総括を説明後，事前にそれぞれの園地から提出していただいた防除暦の実績をもとに，今年度の防除時期や病振り返りを実施しました。そして，今年度の課題等を次年度の防除計画に反映させた内容の防除暦（案）が策定されました。

午後のせん定実技講習は，部会員のほ場で，わい化栽培の樹を普及センター職員が実技指導しました。せん定では，受光態勢の改善や薬剤のかかりやすさ，作業性の向上等を目的とした枝の間引きと小枝の整理方法について指導しました。その後，生産者もグループに分かれてせん定を行い，意見を交わしながら枝の良し悪しを見極めて技術向上を図りました。

当研修会に初めて参加する後継者もおり，各部会員の栽培技術やせん定方法等についてたくさん情報

交換がなされ，有意義な研修となったようです。
　普及センターでは，今後も情報提供や技術指導を行い，ＪＡ新みやぎあさひな地域のりんごの安定生産を支援していきます。

○JA みやぎ登米加工用ばれいしょ説明会が開催されました
令和５年１月 27 日
登米農業改良普及センター

令和５年１月 24 日に、登米市中田町及び米山町で JA みやぎ登米加工用ばれいしょ説明会が開催され、JA みやぎ登米の組合員６名が参加しました。
　説明会では、カルビーポテト株式会社の宮城駐在員より、ばれいしょ栽培の概要や必要な機械装備、宮城県における栽培上の注意点などについて説明がありました。また、既に加工用ばれいしょに取り組んでいる生産者を交えた質疑応答の場も設けられ、参加者からは、ほかの転作作物と比べたばれいしょの特徴や使用している機械についてなどの質問が挙げられていました。
　説明会後には、ばれいしょの自走式収穫機械を見学し、収穫方法や運用上の注意点などの説明がありました。
　普及センターでは、JA みやぎ登米が進める加工用ばれいしょの生産拡大に向けた取り組みに、支援を行ってまいります。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○三住地区簿記記帳会が開催されました
令和５年１月 25 日
大河原農業改良普及センター

　白石市の三住地区では，毎月一回，酪農家が集まり，簿記記帳会が開催されています。この取組はメンバーを世代交代しながら 20 年以上続けられています。記帳会では，毎月発行される乳代精算書をもとにしたパソコン簿記ソフトへの記帳や情報交換を行っています。普及センターは，簿記の記帳指導や経営に関する勉強会を行っています。勉強会は，パソコン簿記ソフト「ソリマチ」の分析機能を用いた経営分析や，令和５年 10 月から開始されるインボイス制度に関する内容など，参集者の経営状況に応じた内容となるよう心がけて実施しています。インボイス制度の勉強会では，各々が情報を収集し，積極的に意見を交換することができました。
　普及センターでは，今後も本会の活動を支援してまいります。

○「吟のいろは」作柄検討会を開催しました
令和５年１月 30 日
美里農業改良普及センター

　大崎市松山地域の松山町酒米研究会（以下「研究会」）は，県内最大の酒米の産地で宮城オリジナルの酒米品種「吟のいろは」の栽培に取り組んでおり，普及センターでは JA や関係機関と共に高品質な「吟のいろは」生産支援に取り組んでいます。

1 月 20 日には，普及センター主催で今年度の「吟のいろは」の作柄を振り返る作柄検討会を開催し，会員 10 名が出席しました。
普及センターからは生産者と共に取り組んだ生育の経過について説明を行いました。今年度は７月の大雨に見舞われたことから，収量はやや目標に達しませんでしたが，千粒重が目標を上回り，品質面でもタンパク質が低い水準になるなど一定の成果が得られました。一方で生育後半での倒伏や，胴割粒の発生など，次作に向けた課題も明らかとなりました。研究会からは次作の試験設計のほか，今後の要望と

して蔵元とのコミュニケーションの場を作りたいとの意見が出されました。

午後からは会場を移し，県みやぎ米推進課と連携した「吟のいろは栽培研修会」を開催しました。普及センターからは今年度の生育の経過を中心に説明したほか，玄米品質や酒米としての品質等の分析結果について説明がありました。会場からは品質に関する質問などが出され，次作に向けた期待の高さが窺われました。

次年度は県内で「吟のいろは」の作付けがさらに拡大する見込みです。

普及センターでは，今後も研究会の活動を支援していきます。

⑤時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「蔵の華」栽培反省会を開催しました

令和５年１月 27 日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市廿一地区の清流「蔵の華」廿一会では，酒造好適米「蔵の華」を栽培し，市内の蔵元２社に出荷しています。

今年は平均反収約 490kg/10a で等級も高く，目標を上回る成績を収めることができました。

反省会では，来年度の更なる高品質・多収化に向け，栽培の振り返りと問題点の洗い出しを行いました。各会員からは，問題となる雑草への対策，高温に対応した肥培・水管理，もみ殻や堆肥など有機物の活用や獣害対策など，幅広く質問が挙がり，議論が展開されることで，来年に向けた改善点を整理しました。

また，「蔵の華」の栽培だけでなく，より地域の特色を生かしたブランド化を勧めたり，地域おこしの材料に活用したりするなど，地域の維持発展に向けても前向きなアイデアが積極的に共有されました。

普及センターも，県庁の関係各課，市と協力しながら，地域の発展に協力していきたいと思います。

○令和4年度東和町稲作部会総合検討会が開催されました

令和５年１月 31 日
登米農業改良普及センター

令和５年１月２７日に，JA みやぎ登米東和町稲作部会の総合検討会が開催され，部会員１１名が参加しました。

はじめに，普及センターから令和４年度の水稲の作柄について説明を行いました。その後，農薬や肥料メーカーから令和５年度から変更になる環境保全米Ｃタイプの除草剤について，肥料の脱プラスチックの観点からペースト肥料を使用した水稲栽培の試験結果，斑点米対策，各種資材について説明がありました。最後に，全農みやぎから資材情勢について説明がありました。部会員からは，アオミドロや表層剥離，カメムシの発生状況等に関する質問があり，今年度の作付けについて振り返りが行われました。

普及センターでは，今後も水稲の品質向上，安定生産に向けた支援を行ってまいります。

⑥要請・緊急対策、その他

○宮城教育大学附属小学校の体験学習会が開催されました

令和５年１月 20 日
仙台農業改良普及センター

令和５年１月１３日，国立大学法人宮城教育大学附属小学校の２年生３０名を対象とした，「土づくり」のための体験学習会が開催されました。

授業の一環として，有限会社今野醸造（加美町）の協力のもと学校畑で大豆を栽培し，それを材料に味噌づくりに取り組んでいるそうです。しかし，ここ数年大豆の収量が減少しており，土に原因があるのではと仮説を立て，児童たちなりに試行錯誤してきたそうです。

今回，「土づくり」に関する授業をしてほしいと普及センターに依頼があり，ゲストティーチャーとして参加しました。はじめに，児童たちが考えた「いい

土」についての発表を聞き，その発表に対して講評などを行いました。次に，普及センターから「土って何だろう？いい土って何だろう？」というタイトルで，児童たちと土について一緒に考えながら，講義を行いました。最後に，講義内容の振り返りを兼ねて，小学校の畑で，「土の色」や「砂や粘土の感触の違い」などについて，土を触りながら確認しました。

終始質問が飛び交い，有意義な学習会となりました。

「土の色」や「砂や粘土の感触の違い」を確認する様子

※写真の掲載は，了承を得て行っています。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER No.192
発行日:2023 年 2 月 10 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp